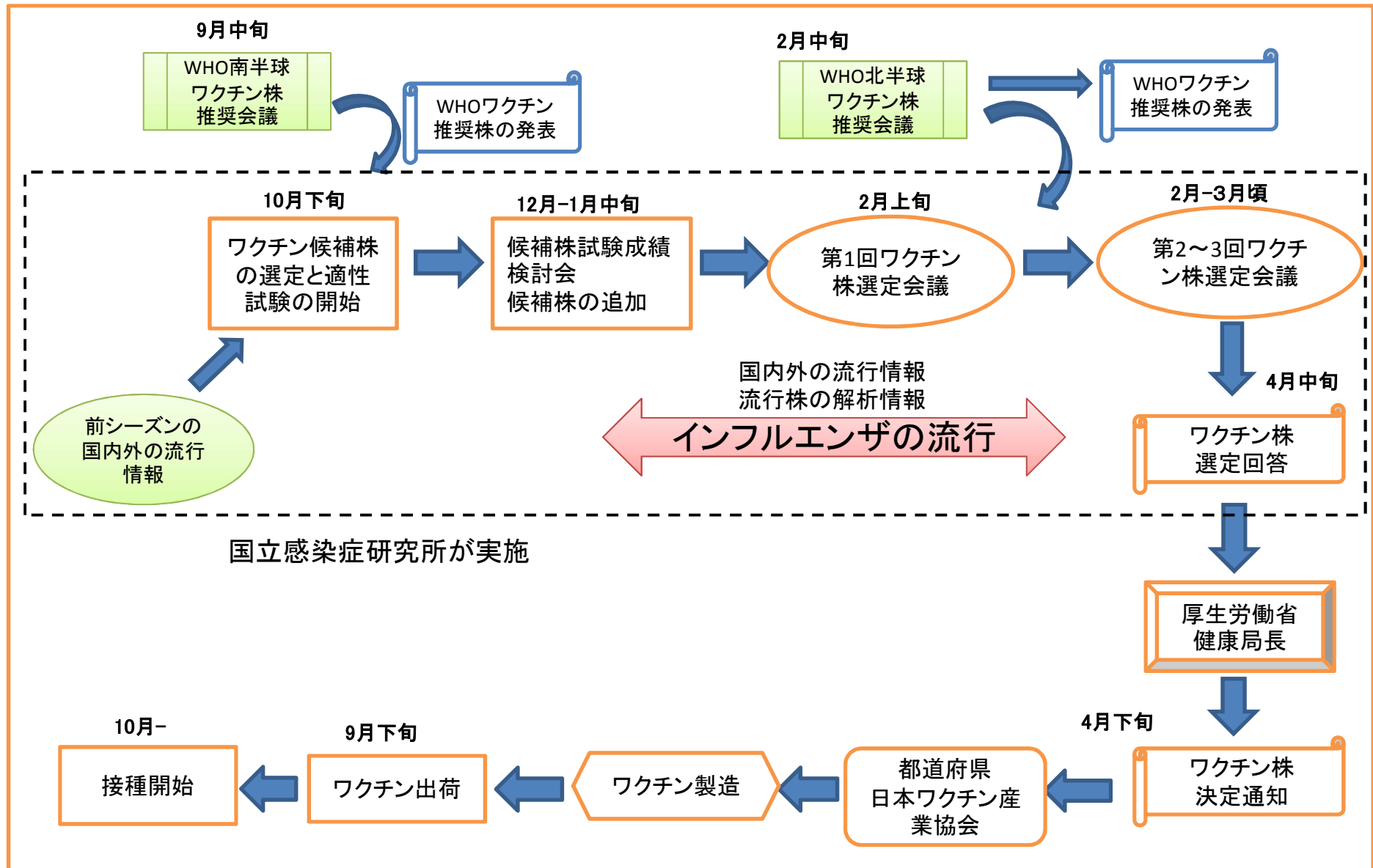


インフルエンザワクチン株とその選定プロセス



2013/2014シーズンインフルエンザHAワクチン製造株について

1. WHO が推薦するワクチン製造株の構成

WHOは以下のインフルエンザウイルス株の流行を予測しており、ワクチン製造株として推奨している。

- (1) A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1)pdm09類似株
- (2) 細胞で分離増殖したA/ビクトリア/361/2011(H3N2)の類似株、製造株としてはA/テキサス/50/2012株
- (3) B/マサチューセッツ/2/2012類似株

2. 我が国のワクチン製造株について

上記WHO勧告を踏まえ、2013/2014シーズンは以下の3株をワクチン製造株として選定した。

- (1) A/カリフォルニア/7/2009 (X-179A) (H1N1)pdm09
- (2) A/テキサス/50/2012 (X-223) (H3N2)
- (3) B/マサチューセッツ/2/2012(BX-51B)

※国立感染症研究所における検討の結果、

○A/H1N1 pdm09亜型については、国内外の流行株は2012/2013シーズンのワクチン株と抗原性に大きな違いはないことなどから、A/カリフォルニア/7/2009(X-179A) (H1N1) pdm09 (2012/2013シーズンと同じ)を選定した。

○A/H3N2の型については、①WHOが、2012/2013シーズンのワクチン株であるA/ビクトリア/361/2011(IVR-165) (H3N2)は、鶏卵への馴化の結果、流行株と比べて抗原性が大きく変化しているため、2013/2014シーズンのワクチン株に、鶏卵馴化しても抗原性の変化の程度が比較的小さいA/テキサス/50/2012を推奨したこと、②A/テキサス/50/2012から開発された2種類のワクチン製造候補株のうち、流行株に抗原性が近い高増殖株はX-223であるという感染研および海外WHO協力センターの報告などを踏まえ、A/テキサス/50/2012(X-223) (H3N2)が総合的に最も適切であると判断し、製造株として選定した。

○B型については、①国内外で山形系統が流行の主流であること、②国民の抗体保有状況調査では、山形系統に対する抗体保有レベルは、ビクトリア系統に対する抗体保有レベルより低いこと、③国内外の流行株の大半は、最近の代表株であるB/マサチューセッツ/2/2012と遺伝的に同じグループに分類されること、④B/マサチューセッツ/2/2012から開発された2種類のワクチン製造候補株について検討した結果、BX-51Bが増殖性、製造効率が良好であることから、山形系統のB/マサチューセッツ/2/2012(BX-51B) を製造株として選定した。